

十勝岳

1 概況

火山活動はやや活発な状態が続いています。
62-2 火口では白色の噴煙が火口縁上の高さ 200～300m で勢いよく噴出しています。
火山性地震は少ない状態が続いています。

2 地震および微動の発生状況

火山性地震の回数は 1 日あたり 0～6 回で少ない状態が続いています。火山性微動は 2 月 25～26 日以降観測されていません。

月別地震・微動回数

2003～2004年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地震回数H点	44	60	24	35	26	106	62	36	36	41	17	30
地震回数A点	18	14	9	9	5	40	16	9	12	7	6	5
微動回数H点	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0

3 噴煙の状況

62-2 火口の噴煙は白色ですが、量は多く、噴出の勢いも強い状況が続いています。噴煙の高さは火口縁上おおむね 200～300m で経過しました。火山灰混じりの有色噴煙は 2 月 25～26 日以降観測されていません。



西側上空から見た 62-2 火口 (3 月 15 日撮影)

4 上空からの観測結果

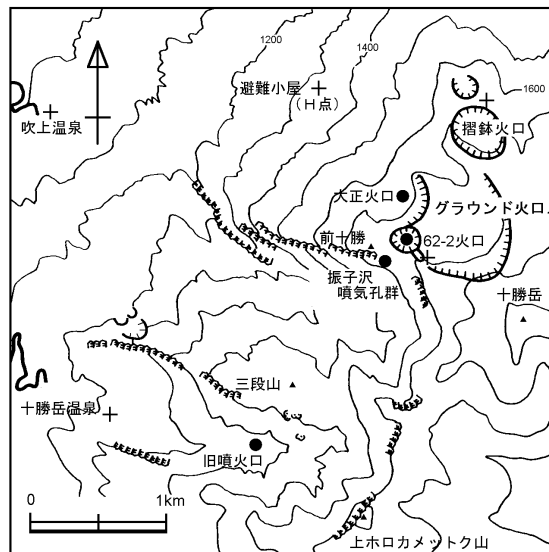
3 月 15 日に北海道の協力により実施したヘリコプターからの観測では、62-2 火口の形状や周辺の地熱域の状況などには特に変わった様子は認められませんでした。

5 地殻変動の状況

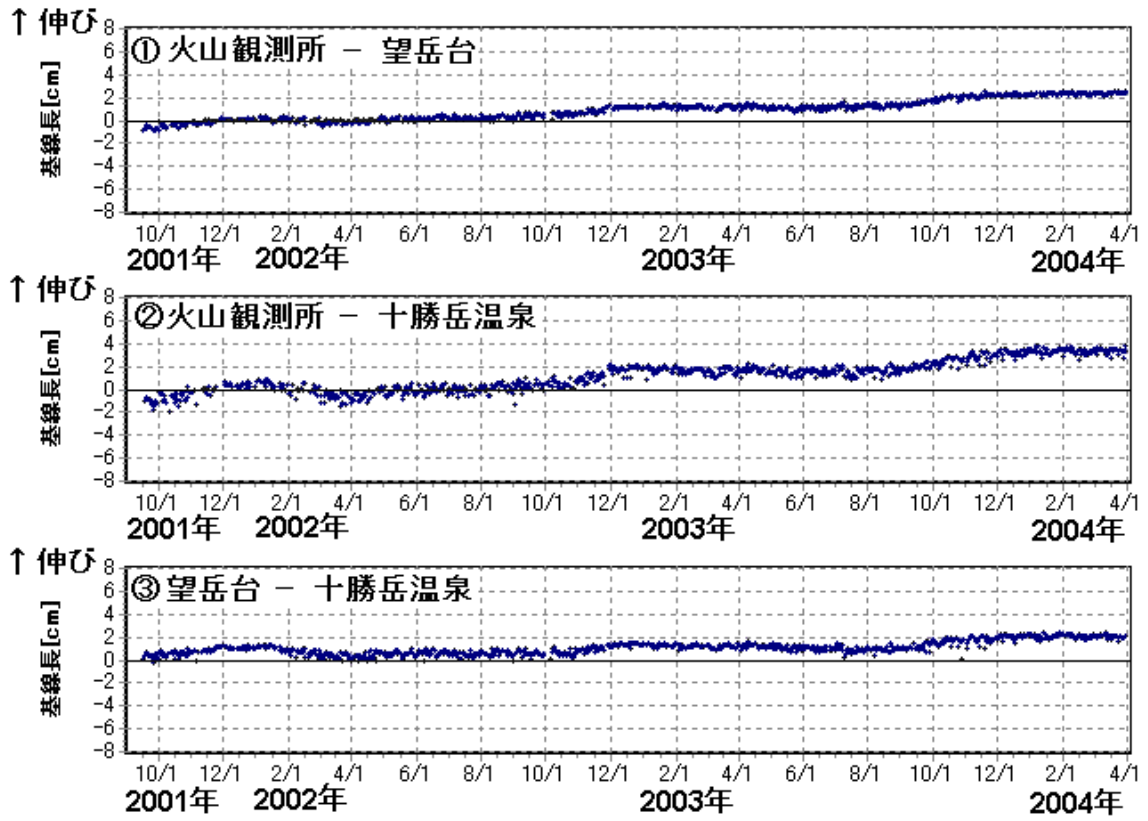
西麓での GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。

6 その他

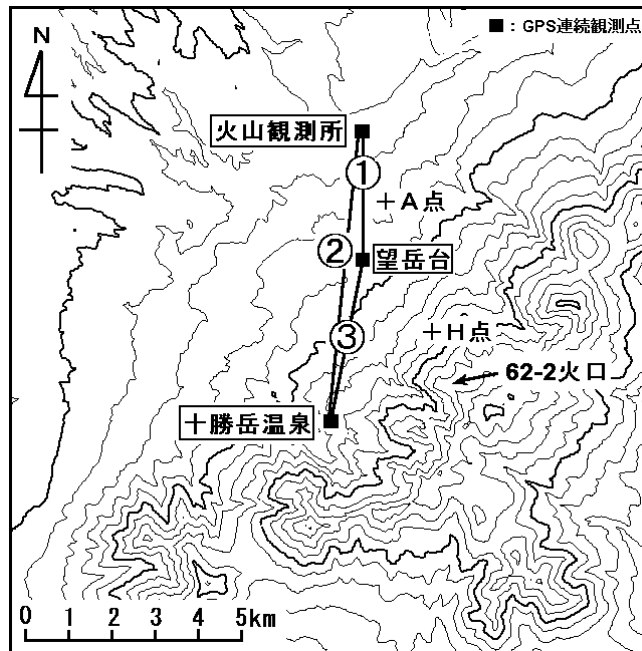
登山者から提供された火山灰と思われるサンプル(3 月 7 日にグラウンド火口の北側地点で、2 月 20 日にグラウンド火口の東側地点でそれぞれ採取された)について北海道大学が分析を行った結果、供給源は 62-2 火口の浅いところと考えられるものの、新鮮なマグマ片は含まれていませんでした。

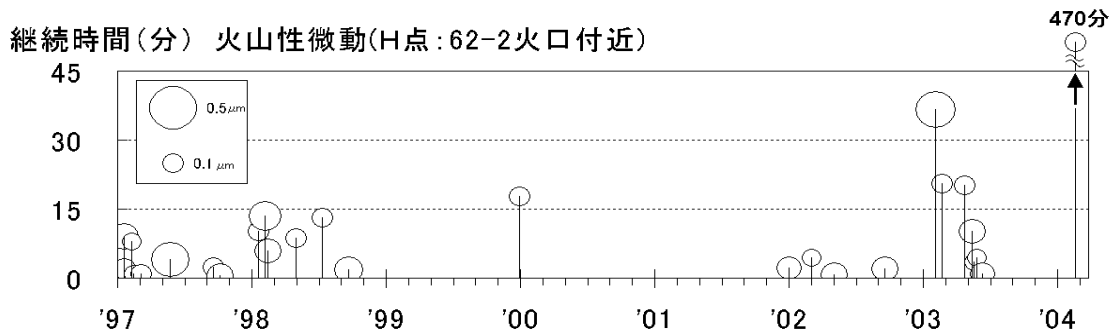
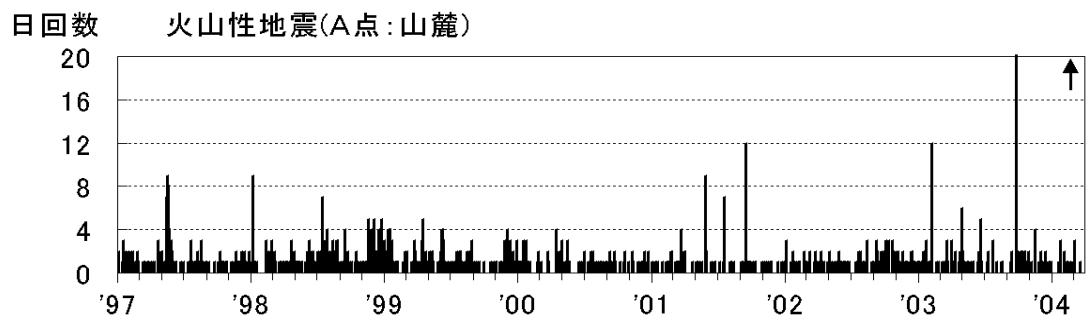
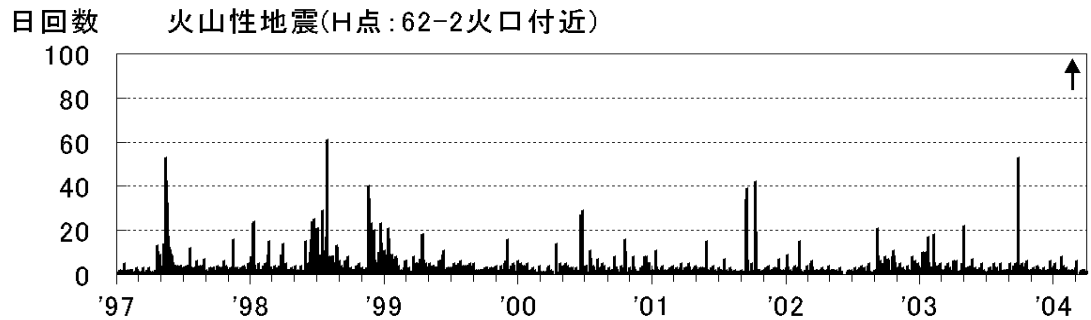
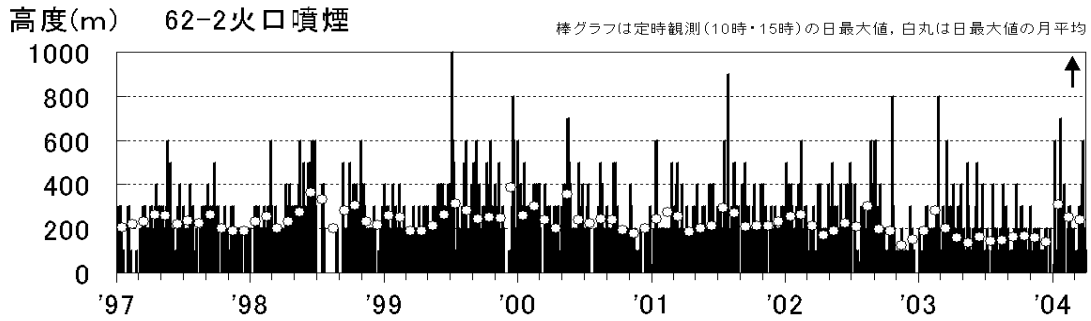
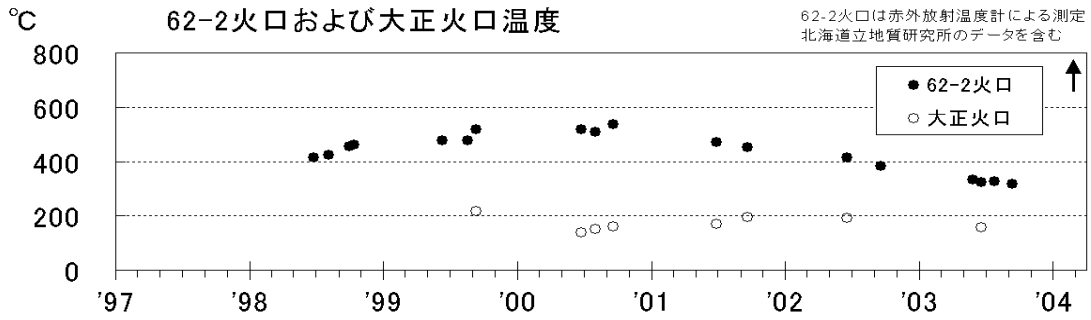


十勝岳火口周辺図

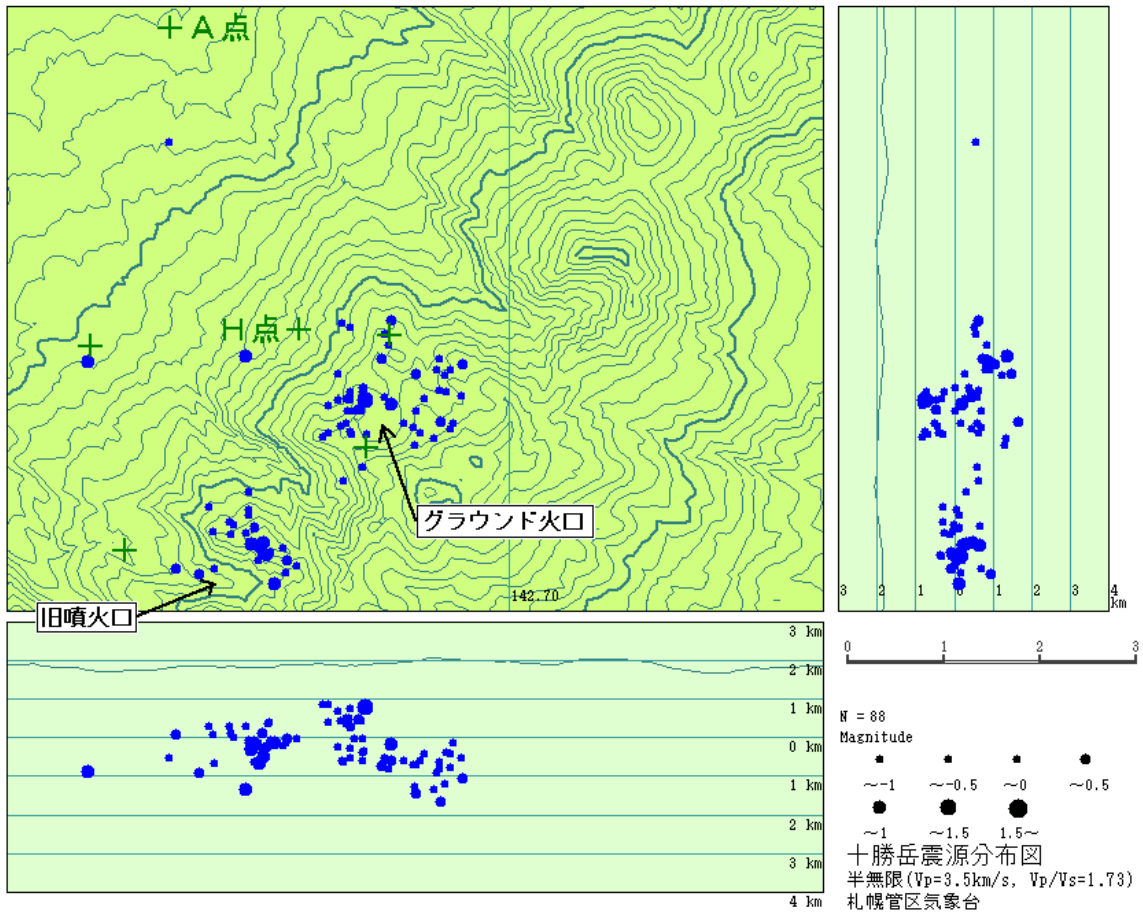


基線長変化(2001年9月13日~2004年3月31日)





日データによる火山活動経過図(1997年1月1日~2004年3月31日) 印は噴火



十勝岳の震源分布図(丸印：震源、+印：地震観測点)

今期間(2004年3月1日~3月31日)に震源が求まった地震はありません。

青丸は前期間までの7か月間(2003年8月1日~2004年2月29日)に求まった震源を示しています。

過去の震源分布は大きく分けてグラウンド火口周辺と三段山~旧噴火口周辺の浅部(海拔付近)に集中しています。